

「いい子」って、どんな子？

校長 鈴木 隆志

中脇初枝さんの小説『きみはいい子』（ポプラ社）を読みました。本のタイトルに惹かれて読んだのですが、内容は児童虐待を描いた5編の短編集でした。フィクションですから作り話なのですが、どこかの町で、今も同じようなことが起きているのだろうと思い、胸が痛みました。それぞれの家にそれぞれの事情があって、その中で子供たちは「いい子」でありたいと思って生きています。

「いい子」って、どんな子なのでしょう？ 「いい子になりなさい」「いい子になってね」などと大人は願います。では、大人が願っている「いい子」って、どんな子なのでしょう？

親や教師の言うことを素直に聞く子／わがまを言わない子／手のかからない子／兄弟姉妹げんかをしない子／おとなしくしている子／親の思いどおりになる子／よく手伝う子／成績のいい子／…。そんな「いい子」像を描いてはいませんか。これは大人のエゴなのかもしれません。大人が描く「いい子」像とずれが生じると、子供に対して「…してはダメ」「…してはいけません」などと言ったり、先回りをして「ああしなさい」「こうしなさい」と言ったりしてしまうことはないでしょうか。

子供は大人の鏡です。身近な大人である親や教師の描く「いい子」になろうと、懸命に生きています。自分の思いとは違っていても、「いい子」を演じることさえあるのです。そういう子供たちは、親から教師から他者から周囲から、どう見られているかが異様に気になる人間に育ってしまいます。そんな中で成長してきた若者たちは、自己肯定感が全くない状態に陥ります。「新型（現代型）うつ病」と言われる症状は、こうした若者に顕著に表れます。新型うつ病の特徴は、相手を攻めるときは攻撃性があったり、仕事以外では活動的な面があるため周囲からは怠けとか甘えと見られたりすることです。普通に伝えられたことでも馬鹿にされたような感覚で受け取ってしまったり、すぐに他人のせいにしてしまったりすること、知らないことを指摘されるとキレてしまうこと、精神性の幼さなども、新型うつ病の顕著な傾向です。大人の言いなりに育ってきて、大人の描く「いい子」になろうと演じてきて、様々な価値観との折り合いがつけられないために、新型うつ病になってしまうのです。新型うつ病は「いい子症候群」とも言われています。また、背景には「アダルトチルドレン」(*)があるとも言われています。（*アダルトチルドレン：機能不全家庭で育ったことにより、成人してもなお内心的なトラウマをもつという考え方、現象、または人のことを指す。）

光っ子のみんなにも、「いい子」ってどんな子？ と問いかけてみました。勉強する子／親の言うことをちゃんと聞く子／言われたことをしっかりやる子／先生の言ったことをきちんと守る子／しっかりきまりを守る子／規則正しく生活する子／と、親や教師が喜びそうな回答も返ってきましたが、あいさつをたくさんする子／人や動物にやさしい子／声をかけたり助けたりする子／助け合える子／人の話を聞いてあげる子／思いやりのある子／気配りができる子／人を大切にすること／いじめなどをせずみんなで仲良くする子／だめなことはだめだよと言える子／正直な子／うそをつかない子／よく学びよく遊ぶ子／…と、受け身の「いい子」ではなく、主体性のある「いい子」像を描いています。また、十人十色、それぞれの「いい子」像をもっていることが分かりました。我が子であっても、親の思いと子供の思いにはずれがあるのではないのでしょうか。

大人は、あるがままの子供の姿を認め、子供の思いをしっかりと受け入れ、子供の話にとことん耳を傾け、子供が自分自身で判断し行動することを最後まで見届け、子供自身が思い描く「いい子」に育てていかなければなりません。私は子供たちに、「自分が正しい、やりたいと思ったことを自信をもってやりぬく子」が「いい子」なのだと、教えていきたいと思っています。